

【授業科目】 検査リスクマネジメント Laboratory Risk Management

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教員への授業公開
高崎昭彦、森 啓至、鈴木真紀子、平澤 浩、日比敏男、藤田 孝	3年次後期	選択	2	30	講義	あり	巻末掲載	可
授業概要 (内容と進め方)及び課題に対するフィードバック方法	<p>臨床検査の現場では様々な危険因子がある。ヒューマンエラー、検査システムのエラーなどの具体例を臨地実習で実際の医療現場において経験した。現場ではさらにインシデント、アクシデントも起こりうる。臨床検査室の各部署においては部署特有なリスクも存在する。医療事故を防ぐためにも危険性を理解し、回避法、事故発生時の対処法を学ぶことは重要である。本講義は実習施設の実習責任者を含めたオムニバス形式で行う。現場で実際に起こりうるリスクマネジメントを様々な角度から総合的に教授する。</p> <p>さらに、針刺し事故、感染性廃棄物、毒物・劇物取扱、ヒヤリハット報告書などに関するリスクマネジメントについても話を進める。※実務経験を持つ教員が授業を進める。</p> <p>課題に対するフィードバック方法／提出されたレポートにコメントをつけて返却する。提出された課題について、全体の総評コメントを掲示にて公開する</p>							
授業の位置づけ	<p>本学のディプロマ・ポリシー④「幅広い視野で臨床検査を考え、ヘルスケアシステムにおける臨床検査の専門性を理解し、保健・医療・福祉の専門職と連携し、地域社会に貢献できる。」の達成に寄与している。</p>							
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	<p>① 各検査分野におけるリスクを理解し説明できる。 ② 種々のリスクに対して対処法を説明できる。 ③ 検査部門の管理者としてのリスクマネジメント法を学び説明できる。</p>							
時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言	<p>臨地実習など種々の医療現場で学んだリスクマネジメントの現状を把握しておくこと。</p> <p>第1回～15回 事前学修：配布される資料を事前に読んでおく（各30分） 第1回～15回 事後学修：各回での学びを復習することで確認し、解らなかったことは調べ教員に質問する（各30分） ※その他に、講義で学んだことを振り返るための課題を課すことがある（各60分）。 上記例は、1単位15回科目の場合で、予習+復習に必用な時間は、1時間／1回となる。</p> <p>※上記時間については、指定された学修課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（2単位15回科目の場合：予習+復習4時間／1回）（1単位15回科目の場合：予習+復習1時間／1回）（1単位8回科目の場合：予習+復習4時間／1回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。</p>							
授業計画	<p>第1回 一般検査部門でのリスクマネジメント 第2回 感染症検査部門でのリスクマネジメント 第3回 微生物検査部門でのリスクマネジメント 第4回 血液検査部門でのリスクマネジメント 第5回 患者様に対するリスクマネジメント 第6回 生体検査部門でのリスクマネジメント 第7回 病理・細胞診部門でのリスクマネジメント 第8回 各論：針刺し事故におけるリスクマネジメント 第9回 各論：輸血に関わるリスクマネジメント 第10回 各論：院内感染と感染性廃棄物に関わるリスクマネジメント 第11回 各論：毒物・劇物の取り扱いに関するリスクマネジメント 第12回 各論：検査情報に関するリスクマネジメント 第13回 各論：災害時に関するリスクマネジメント 第14回 ヒヤリ・ハット報告書の作成手順を含めた安全管理 第15回 まとめ、総合ディスカッション。</p>						<p>高崎 森 森 鈴木 鈴木 鈴木 平澤 平澤 日比 森 日比 藤田 藤田 藤田 高崎</p>	
評価方法 評価基準	<p>成績は以下の評点配分によって総合的に判断する。 講義ごとのレポート 50%、学期末試験 50%</p>							
教科書	プリントを配付します。			参考書等		なし		
学生へのメッセージ	<p>実際の臨床現場の先生方からどのような過誤があり、その対処法、過誤を未然に防ぐ安全管理方法を講義していただく。現場で働くうえで重要な項目であるためしっかり理解すること。</p>							